

研究所だより

第374号
2017年 5月12日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“夏も近づく八十八夜 野にも山にも若葉が茂る
「あれに見えるは茶摘みじゃないか あかねだすきに菅の笠”
「茶摘」 唱歌（「日本の歌百選」）



～新緑がまぶしい季節となりました！～

日中は汗ばむほどの暑さになり、少しずつ初夏を感じさせる頃となりました。
各校では校長先生のリーダーシップのもと、学校目標・研究主題の具現化に向けて教職員が一丸となって取り組んでいることと思います。また、春運動会実施の学校（三崎小・清水小）では、目標を明確にし、時間を有効に活用しながら取り組んでいるようですね

～続『教師力』アップ～〈管理職編〉

〈今日求められる教師力とは〉 大前 暁政准教授（京都文教大学）
教師力の中身は、立場によって変わる面があります。担任に求められる教師力と、管理職に求められる教師力は、違う面があります。

管理職に必要な力を考える

管理職に必要な力を見ていきましょう。
大切な力をあげると、次のようになります。

- | | |
|---|------------------|
| 1 | 学校のシステムをつくる力 |
| 2 | 学校マネジメントの力 |
| 3 | 教職員へのリーダーシップの力 |
| 4 | 地域や社会、関係機関との連携の力 |

「学校のシステムをつくる力」は非常に重要です。むだな活動を減らし、有益な活動を増やしていきます。無理はないか、一日の学校生活がうまくまわっているか、そういうところをチェックして、改善していくのです。

毎朝、教職員を集めて行っている朝会がなくなるだけでも、教職員に余裕が出ます。朝会を一週間のうち一度もしない学校もあります。朝、余裕をもって教材準備や子ども対応を教職員は行っています。

少しでもむだをなくし、学校で過ごす教職員が、気持ちよく仕事ができる環境をつくっていくのです。

そのためには、むだなことが見えなくてはなりませんし、教職員からの不満を吸い上げる努力をしなくてはなりません。そして、システムを変えることに力を発揮しなくてはならないのです。

なお、危機管理もここに含まれます。学校事故や災害などの際に、こういった動きになるのか、システムをつくっていくのです。

「学校マネジメントの力」とは、さきほどのPDCAサイクルを、今後は学校運営の規模で行っていくことを意味します。

ここで大切になるのが、「全校の子どもを見ること」、「地域を見ること」です。ある恩師の校長に言われたことがあります。「学校に赴任したら地域を歩いて回ることから始めるんだ」

こうして、子どもの様子、地域の様子をつかまないと、どう学校を運営してよい

のか分からないからと言うのです。けだし名言だと思いました。

「教職員へのリーダーシップの力」でいちばん大切なのは、「ビジョン」を示すことです。教職員のやる気を高めるようなビジョンを示し、そしてそこへ導くような力が求められています。

「地域や社会、関係機関との連携の力」とは、地域の要望や社会の要望を聞き取り、地域や様々な機関と連携できる力のことです。児童相談所や医療機関、警察、保育園や幼稚園、中学校などとも、連携していかなくてはなりません。

最近では、次の力も必要とされるようになりした。

- | |
|------------------|
| ①最新の教育ニーズを取り入れる力 |
| ②学校の特色を生み出す力 |
| ③若手を育てる力 |

「最新の教育ニーズを取り入れる力」とは、例えば、アクティブラーニングに対応した授業を取り入れるなどです。

「学校の特色を生み出す力」とは、その地域の特色を活かした学校をつくることや、学校独自の取組をするなどのことを意味します。

「若手を育てる力」は、大量採用時代には、非常に重要な力といえます。大量退職の時代が続いており、知識や技能の伝達が十分にできなくなる恐れがあります。管理職も先頭に立って若手を育てなければならないのです。

ここまでで気付くことがあります。

それは、担任に必要なだった力を、管理職になると、今度は、学校全体という規模で発揮しなくてはならないということです。また、若手を育てるには、担任に必要な力が身につけていないといけないことも分かります。よい授業をしたことがないと、授業について指導することはできません。

管理職の教員は、管理職に必要なとなる力を伸ばしつつ、若手の指導もしなくてはならないため、担任に必要な教師力への意識と研鑽が必要になるのです。

（参考文献「指導と評価4月号」）

研究協力校及び研究グループ

この1年間、清水の教育の発展・向上のために研究協力校及び研究員（グループ）を委嘱し、それぞれがテーマを設定して研究をしていただきます。研究の取組、概要、成果、課題につきましては、研究集録『清水の教育』に掲載します。

【研究協力校】

＜下ノ加江小学校＞ 研究主任：松本 恵梨香 校長：山崎 修二

1. 研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びによる学力の向上」
～複式授業の工夫・改善～

2. 研究の概要

- ①複式授業の改善に向けた研究
 - ・複式授業のスタンダードづくり
 - ・主体的・対話的で、深い学びの在り方
 - ・進行表の活用
 - ・学習リーダーの育成
 - ・直接・間接指導の在り方
- ②その他
 - ・これからのカリキュラムマネジメントの在り方

3. その他

I 学習会「複式教育について」

○期日：平成29年8月9日（水）

○講師：田中 元康 先生（高知大学教育学部附属小複式主任）

-----<中浜小学校>----- 研究主任：永橋 貴恵 校長：坂本 恭美子

1. 研究テーマ

「基礎的・基本的な学習内容や学習習慣を身につけ主体的に学ぶ子どもの育成」
～複式授業形態を生かした学び合い(とも学び)学習の取り組みを通して～

2. 研究の概要

(1) 研究主題について

昨年度は研究テーマを「自己を鍛え学びう力を育てる～対話の生まれる道徳の授業づくりを通して～」として取り組んだ。次期学習指導要領から「特別な教科道徳」として、新たな授業展開が求められる道徳の授業を中心に、児童が協働し主体的に課題を追求していく教育活動を目指しての研究とした。今後「考え・議論する道徳」へと授業の質の転換が求められるが、これは道徳の時間に限ったことではなく、全ての授業で追求すべき課題であり、これまでの授業のあり方を根本的に見直す必要があった。提案授業日は校内研修とし市内小中学校、教育研究所の先生方と共に学び合えたことは、多様な見方・考え方を得る機会となり大変効果があった。児童の道徳意識調査（年間2回実施）からも、道徳教育に関する関心の高さが見られ、規範意識の項目も全て向上した。このことから、昨年度の研究は一定の成果は得たと考える。

そこで、本年度は昨年度の研究の礎に、複式の授業形態を生かした学び合い(とも学び)を研究の柱に取り組む。「とも学び」に必要な基本的な言語力から学習内容・目的に応じた多様な形態まで発達段階に応じて丁寧に指導していく。さらに基本型から脱却して主体的な学びへ児童が変容していくことを目指したい。そのためには、少人数複式だからこそできる柔軟なカリキュラム編成（カリキュラムマネジメント）に取り組む。例えば、教科担任制にするなどの研究組織を整えることや、教科間の横断的な単元計画等がその方策となる。昨年度の課題を明らかにしながら本研究を推進していきたいと考える。

(2) 研究計画

- ①公開授業・提案授業（各1本：年間合計6本）
- ②提案授業での講師招聘（西部教育事務所・高知大附属小学校複式部 等）
- ③提案授業・講師招聘の際は市内小中学校への公開研究とする。
- ④授業力診断シートの活用（年間2回実施）
- ⑤児童意識調査（年間3回実施）
- ⑥「中浜小授業スタンダード」「Basicガイドブック」を活用し問題発見型の授業とすることから、家庭学習と連動させる。（家庭学習の質の向上）
- ⑦検証→単元テスト・各種学力調査・児童意識調査・ノート等のパフォーマンス評価

-----<三崎小学校>----- 研究主任：畠中 明美 校長：黒岩 壽賀

1. 研究テーマ

『地域の中で学習することで、自立する子どもの育成をめざして』

高知県教育振興計画の目標の1つである地域との連携・協働を推進する為に、総合的な学習の時間や社会科の時間を中心として、三崎という地域の風

土に触れ、地域の人たちとのかかわりの中で、郷土を愛し守り、生きる力を養う。

2. 研究の概要

◎目標

- ①地域の人達との交流や自然の中での体験活動を通じて、歴史や課題を理解し、故郷を愛する心情を育てる。
- ②「山・川・海の学習」を通じて地域や文化について学び理解を深める。
- ③森林の持つ意義と大切さを学び、これからの環境について考える。
○総合的な学習の時間や社会科の時間を活用し、地域と連携しながら、地域の持つ良さを探求し地域と触れ合う中で、環境学習を中心に、体験的な活動を行い身近な自然に触れ、自分達にできることを考える。

◎活動計画

- ①清掃活動
・海岸清掃（全学年）
学校行事と連動させ、自然の中で活動を行い「桜浜」の地域としての価値を考え清掃活動を行う。
・川清掃【児童・保護者・地域合同5か所】（全学年）
今の山から流れ出す川を大切にすること、誇りを持つことで、そこで生きることへの自尊感情を育てる。また、地域の中での活動を通して地域を愛する心を育み地域の人達との交流を行う。夏休み中の各地区での活動を通して、地域の人々とふれあい、地域の持つ良さを考える。
- ②地域の花作り。【校舎周辺・学校沿道への花植え】（全学年）
- ③ふるさとの川の恵み体験。【川エビ漁・ころがし作り】三崎川の持つ豊かさや自然の生き物に触れ、川を守ろうとする意識を育てる。（高）海・山・川のつながりを学習し、そこで暮らす人々の生活を考える。
- ④海洋館見学（海洋生物 生態を学習）地域の観光施設を見学することで、身近な海に住む生物に関心を持ち、山や川の大切さを理解する。（全学年）
- ⑤米作り（田植えから収穫・餅つき大会まで）
米作り体験活動を通して、山と川のつながり人々の暮らしを考える。
○環境保全啓発用看板作り（高）
- ⑥地域学習。
フィールドワーク・・・ビニールハウス、土佐食、ケンピ工場など地域の工場や施設の見学を行う。
- ⑦海浜学習（シュノーケリング・サンゴ生態学習）（中・高）
山・川・海の循環作用が自然の摂理であることの理解。また、そのつながりが身近な自然を育み、人々の暮らしと深く関わっていることを理解する。
- ⑧間伐作業（高）

3. その他

- ・ディサービスや社会福祉との関連行事。

-----【研究グループ】-----

<土佐清水市特別支援教育研究会> 会長：清水小学校 筒井 広実

1. 研究テーマ

交流学習を通して特別な支援が必要な児童・生徒が互いに連携と親睦を図ること社会性を身につけさせ、自立への意欲を育てる。

2. 研究の概要

1 学期 研修会：実践交流

5月19日（金）16:00～16:45（場所 清水中学校）

親子交歓会：ゲーム交流と水族館でのえさやり体験

6月13日（火）10:30～15:30（場所 三崎小学校・海洋館）

研修会：実践交流会

8月28日（月）11:00～12:00（場所 清水中学校）

2 学期 交流及び共同学習：野外活動（ゲーム交流とバーベキュー）

11月7日（火）10:30～14:00（場所 幡多青少年の家）

研修会：実践交流、郡文集「大地」仮とじ

11月27日（月）16:00～16:45（場所 清水中学校）

研修会：実践交流、第3回交流会の計画

12月14日（木）16:00～16:45（場所 清水中学校）

3 学期 交流及び共同学習：ゲーム交流とカレー作り

1月15日（月）10:30～14:30（場所 清水中学校）

研修会：今年度の総括・文集「つばき」製本

2月23日（金）15:30～16:45（場所 清水中学校）

3. その他

会長 筒井 広実（清水小学校）

副会長 黒岩 壽賀（三崎小学校）

事務局 吉本 拓也（清水小学校）

会計 山岡 理江（三崎小学校）

監査 坂本 恭美子（中浜小学校）

岡崎 哲也（清水中学校）

理事 山崎 泉（清水中学校）

【活動の役割分担】

①文集「つばき」表紙担当：清水小学校

②幡多郡文集「大地」中表紙：清水中学校

③その他の役割分担

* 幡多郡通信「かがやき」原稿（清水中学校）

* 清水の教育：長谷川 清治（下ノ加江小学校） 吉本 拓也（清水小学校）

市教研 各研究会テーマ、研修計画

国語部会	『語彙を増やす指導の手立て探る～話す・聞くの領域の中から～』
中野こずえ (5名)	8月22日 教材研究 11月8日 提案授業（三崎小：畠中 明美） 1月22日 年間総括

社会科部会	『社会科指導法の研究－フィールドワーク・地域教材を生かして－』
山崎 修二 (8名)	5月下旬～6月初旬 アクティブラーニング講演会 講話（高知大学教育学部長 藤田 詠司先生） 8月22日 フィールドワーク (節納屋の見学・地域産業についての学習) 11月8日 研究授業（足摺岬小：北代 可也） 1月未定 年間総括

算数・数学部会	『楽しくわかる算数・数学の授業の創造』
吉本 砂紀 (14名)	6月2日 研究授業（清水中1年2組） 8月22日 講話（西部教育事務所）、指導案検討、教材研究 11月8日 研究授業（三崎小5年：安田 政司）、教具作り 1月16日 年間総括

理科部会	『わかる楽しい授業づくり』
文野 貴之 (7名)	8月22日 フィールドワーク（足摺岬周辺） ジオパーク副読本と実際 11月8日 研究授業（清水中：今城 隆）、実践交流 1月20日 年間総括

音楽部会	『一人ひとりが生きる音楽の授業をめざして』
和田 祐二 (3名)	8月22日 指導案検討 11月8日 研究授業（清水小6年1組：和田 祐二） 1月16日 年間総括

図工部会	『豊かな発想で創造する力を育てる』
尾崎 浩史 (5名)	8月22日 指導案検討、マブリング等の技法をいかした作品作り 11月8日 研究授業（清水中：尾崎 浩史）、紙粘土工作 1月末 年間総括

家庭科部会	『命とくらしを守る家庭科教育』
助村 紗恵 (3名)	8月上旬 実技講習（フラワーアレンジメント） 8月22日 指導案検討、実技講習 11月8日 研究授業（清水小6年2組：助村 紗恵） 1月25日 年間総括

体育部会	『～関わり合い、運動好きな子どもを育てる～自主性を活かし、個性を伸ばす体育指導』
今津 好智 (10名)	8月22日 指導案検討、情報交換、ニュースポーツ実技研修 11月8日 研究授業（清水中：山本 博之、立石 和憲） 1月中旬 年間総括、「清水の教育」原稿確認

外国語部会	『みんなが意欲的に取り組める授業づくりー小中高の連携ー』
田口 真澄 (5名)	5月31日 清水中授業参観（授業者：浦田 国宏） 6月中旬 清水高校授業参観 8月22日 講話「小学校外国語活動、教科化について」 西部教育事務所指導主事 10月12日 幡陽小授業参観（授業者：下元 貴公） 11月8日 研究授業（清水中：近森 勇太） 1月19日 総括教研、「清水の教育」原稿づくり 2月1日 清水小授業参観（授業者：沖本 花苗）

養護部会	『～地域に根ざした健康教育～ 小児生活習慣病について』		
秋田 敏恵 (6名)	6月 6日	小児生活習慣病教材検討	
	8月 22日	小児生活習慣病教材作り	
	9月 29日	小児生活習慣病教材作り	
	11月 8日	研究授業(下ノ加江小:細川 知美)	
	12月 5日	小児生活習慣病教材作り	
	1月 16日	総括(成果と課題))	
	2月 26日	役員確認、小児生活習慣病健診結果について	

事務部会	『「学校事務をふかめる」 ～組織の一員としてできる学校事務を考える～』		
岡村 一恵 (8名)	6月	研修計画を具体的に提案	
	8月 22日	グループ研修・全体研修等	
	11月 8日	学校教育課との合同研修	
	1月未定	1年間の総括「清水の教育」原稿の検討	

人権教育部会	『差別の現実から深く学び、どう自分の課題として教育活動に生かしていくか』		
溝渕 紀仁 (8名)	8月 22日	講師招聘しての学習会 「同和問題に関する現在の課題」	
	11月 8日	研究授業(中浜小:永橋 貴恵)	
	1月 19日	年間総括、「清水の教育」原稿	

教育相談部会	『人間関係を考える ～見る・聴く・つなぐ～』		
岡田 栄喜 (13名)	6月 5日	学習会「PAについて」(講話・実技)	
	8月 22日	「カウンセリング」(講演・演習) 講師:スクールカウンセラー	
	11月 8日	「発達障害について」(講演・演習) 講師:心の教育センター	
	12月未定	年間総括 学習会	

情報教育部会	『ICTを活用した授業と情報モラルの指導方法についての研究を深める』		
野村 紀文 (6名)	8月 22日	講師招聘 「情報モラルの指導方法について」	
	11月 8日	研究授業 (下川口小6年:藤原 大生「ICTを活用した授業(プロホ)」)	
	1月 11日	年間総括	

◇教具の貸し出しをしています！◇

教育研究所には下記のような「貸し出し手作り教具」があります。
「かけ算九九カードゲーム」(2年生)、「ローマ字カード」(3年生)、「漢字カード」(1年生)です。
この教材の共通点は、カードでいろいろなゲームにチャレンジしながら、楽しく学べるところにあります。
活用するカードの組み合わせによって多様なゲームができるため、子どもたちは飽きることなく繰り返し学習に取り組めます。
どうぞご利用ください。



「かけ算九九カードゲーム」 「ローマ字カード」 「漢字カード」

<購入書籍・DVD等の紹介> ~ご利用をお待ちしています~

☆書籍

○新教育課程ライブラリⅡVol.4

「三つの資質・能力から考えるこれからの学校経営」

☆DVD(平和・人権教育教材)

【平和教材】

「おかあさんの木」(22分) 原作:大川悦生

子を思う親の愛を感動的に描き、戦争の悲劇、平和の尊さを訴えます。

